

「三船小学校の春花太鼓踊り伝承活動の取組」

1 学校名

始良市立三船小学校

2 学年・人数

6年生（21人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年11月27日（月） 三船小学校体育館

(2) 発表の日時・場所

令和5年8月21日（月） 蒲生八幡神社（児童11名参加）

令和5年11月4日（土） 校区秋祭り

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

春花太鼓踊り（はるけたいこおどり）

(2) 由来

春花太鼓踊りは始良市の無形民俗文化財に指定されており、約400年の歴史をもつ郷土伝統芸能である。この踊りは、文禄・慶長の役から凱旋踊りとして、また病を鎮める効験があるとして、島津義弘によって始まったとされ、今日まで伝承されてきた。現在は、春花太鼓踊り保存会を中心に継承活動が行われている。

(3) 構成等

踊りは先導役のホタ振り、鉦打ち、太鼓打ちで構成され、道を行進する道太鼓、神社の境内等の広場で円陣を組んで踊る庭踊りがある。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年8月21日に蒲生八幡神社で太鼓踊りが開催されている。現在、保存会では、夏休みに小・中学生を中心に公民館や船津公園で練習を行っている。

伝統行事として受け継がれている太鼓踊りだが、年々踊り子が減っている状況から後継者育成が課題となっている。

そこで三船小では、6年生の総合的な学習の時間に保存会の方を学校にお招きし、太鼓踊りの由来や踊り方を学んだりする活動を行った。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら太鼓踊りを継承していくために、総合的な学習の中に「春花太鼓踊り」を位置付けた。そうすることで、春花自治会だけでなく、三船校区全体で春花太鼓踊りを学ぶことができる。

踊りは、兜や陣笠、陣羽織等の衣装を着て、顔は口紅と鼻筋の白粉を塗り、ヒゲをつける。化粧こそしなかったが子供たちはその衣装を身にまとい、太鼓踊りにチャレンジすることができた。今後も継続して保存会と連携して太鼓踊りを継承していける体制づくりに努めたい。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



ホタふり（旗）先頭踊りの練習



太鼓や衣装をつけて体験



鉦打ちの練習の様子



秋祭りで出演

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【6年生児童】

ぼくは、初めて太鼓踊りの練習に参加しました。夏休みから練習が始まり、ぼくは鉦を担当することになりました。暑い中鉦を打ちながら踊るのはとても大変でしたが、たくさんの方に喜んでもらったのでこれからも頑張りたいです。

【教職員】

6年生全員が太鼓や鉦，ホタ踊りまで実際に体験することができました。中学生も2人来てくれて，6年生に踊りを教えてくれました。迫力のある太鼓踊りに夢中になってチャレンジしている子供たちの姿がとても印象的でした。

【保存会から】

わたしは毎年娘と一緒に太鼓踊りに参加しています。本番では太鼓を担いで40分ぐらい踊ります。太鼓が重いのでとてもきついです。地域の宝としてこれからも多くの方にこの素晴らしい踊りを伝えていきたいと思っています。

【地域の方から】

年々後継者が減っているのでも、学校の教育活動の一環として取り組んでもらえるのはとてもありがたいと思っています。子供たちは踊りを覚えるのがとても早いです。今後もいろいろな場で春花太鼓踊りを披露していきたいです。